

FC岐阜 大好き 通信

『きだいどおり』ではありませんが、そう呼んでいただいてもOKです。FC岐阜のサポーターが小さな話題を集めてお配りします。試合前の時間つぶしにご利用ください。会場に残されるとごみになっちゃいますので、お持ち帰りください。会場美化にご協力を。



内容は知らない。とにかく、結果だ。

後期第10節 YKK AP戦 の巻

10月14日(日) 13時～
岐阜メモリアルセンター長良川競技場

前節・アウェーの刈谷戦。またしても10人になっての逆転負け。ジェフリザ戦そのままの展開。なんとかJ加盟枠の4位は死守出来たものの、もう後がない崖っぷち。今節の結果次第では7位にまで落ちる可能性がある。しかし、過去を振り返っても何も変わらない。Jリーグ正式加盟の申請書類も提出した。得点力不足を補うべく、札幌から相川を獲得した。あとは、やるべきことをやるだけだ。今節の相手はYKKAP。すぐ上の3位チームをホームで叩かずしてなんとする。J1時代の札幌が配布したMDPの言葉をここで引用したい。「ホームなのだ。よそ行きのサッカーはいらない。泥臭く、勝たなければならない。最もぶさまなのは、負けることなのだ」。

◇FC刈谷戦

「後悔先に立たず」とはいうものの、10人になってなお十分勝てた試合、それだけに悔しさひとしお。後半、退場劇の直後のPKによる失点で同点に追いつかれたものの、ディフェンスに転ずることなく攻撃を続けたFC岐阜。これは評価できる。むしろ攻撃がシンプルになって連携がスムーズになった得点の匂いは前半より強く感じられた。刈谷はFC岐阜の「10人制サッカー」に対応しきれていない様子。ところが大詰めでポッカーあいたルートをドリブルで持ち込まれ痛恨の被弾。やはり11人对10人だった。となると悔やまれるのはやはり攻撃陣。決められなければせっかくの「決定機」も意味を成さない。(TAG)

◇国体岐阜選抜も健闘しました

秋田国体成年男子1回戦、岐阜県-秋田県に行ってきた。相手は秋田県選抜といっても、実質はAチームと同じJFLのTDKSC。しかもフルメンバー。3部のチーム相手に、Aチームから助っ人が3人いるとはいえ、8部のBチームが中心では流石に厳しいだろうと思っていました。しかし彼らは試合開始から攻めの姿勢を崩さず、押し込まれても押し返し、ワンチャンスをもろにして先制。後半開始直後に追いつかれはしたものの、GK海野剛がビッグセーブを連発したり、DF陣が体を張った守備で延長戦に持ち込みます。最後は体力差が出て2失点して敗れはしましたが、最後まで諦めないその戦いぶりには、チームの、また選手個人の「誇り」や「魂」を感じ取ることができて激しく感動しました。個々の能力では劣っていても、持てる力をフルに発揮し、その力を合わせることでチームとして勝るとも劣らない試合を演じた彼らを、現地で応援した者として誇りに思います。こういうサッカーを続ければ、岐阜のサッカーのレベルは必ず上がっていくでしょう。感動と誇り、そして勇気と希望をありがとう、と選手達にはお礼を言いたいです。(あふろん)

直近3試合の結果

後07節 ○ 琉球 0-1 岐阜
(岐阜得点者: 片桐)
後08節 △ 岐阜 1-1 熊本
(岐阜得点者: 小島)
後09節 ● 刈谷 2-1 岐阜
(岐阜得点者: 伊藤哲)

順位表 / TOP9

後期第9節
1. 佐川急 64pts +42
2. 熊本 54pts +23
3. YKK 47pts +12
4. 岐阜 43pts +8

5. 北陸 43pts +4
6. 千葉 42pts +3
7. Honda 41pts +12
8. 横河 38pts +2
9. 流経 38pts +1

次回Home Game

後期第12節
ソニー仙台戦
11/03(土) 13:00
@大垣浅中公園陸上競技場
久々の大垣開催です。お間違えなきよう！

試合前の腹ごしらえも、試合後の感想戦も、
岐阜駅すぐ前・グランパレホテル東側隣の『博多ラーメン・びったれ家』だ！
10/14と10/15、このMDP持参の方に生(小)1杯サービスかラーメン200円引！

Today's Guest - welcome to GIFU - YKK AP

1962年にYKKサッカー部として創部。「北信越リーグ」オリジナルメンバーの1つで、富山県を代表する強豪。北陸電力(現:アローズ北陸)に1年遅れてJFL加盟。2004年から「YKK AP」となり現在に至る。2008年より、アローズ北陸と統合し新たにクラブチーム化することが発表された(YKK AP自体は労組傘下のクラブとして県リーグなどで活動継続)。

◇天皇杯3回戦・徳島戦@鳴門

●前半はほぼFC岐阜ペース。サイド攻撃が効果的で、特に20~30分頃は何度も決定機を作るも、得点には至らず、前半は0-0で折り返す。後半は徐々に徳島が勢いを増し、FKで得点を奪われる。その後は前掛かりにならざるを得ずバランスが崩れてしまい、追加点で突き放され2-0で敗北。一言で言えば『決定力の差』に尽きると思いました。最も埋めやすく、また最も埋めにくい差がJクラブとの間にある事を痛感させられました。しかし、選手達は必ずやこの差を埋めてくれると信じています。JFLも今期残り8節、負けられない戦いが続きます。これからもスタジアムで力の限り選手を応援し、勝利に結び付けたいと思います。(ささたく)
●無気力とは言わないが、なすすべなく敗退。岐阜が攻めるように見えてもそれはボールを持たされていただけで、カウンターで攻めたい相手の注文どおりに最初から最後までハマればなし。選手もそれは分かっているのに、崩そうというアイデアが全く見えず、ただ体力を消耗するだけ。去年の草津戦でも同じような負け方をしましたが、今年は何の収穫もない敗戦でした。むしろ、「この1年間何をしていたのか？」ということが浮き彫りになったかと。この試合では勝利もさることながら、先週の秋田と同じ「アウェイで格上挑戦」というシチュエーションで、どれだけのパフォーマンスを見せるのかが一番の見どころだったと思います。その視点で見ると、国体組と比べてしょっぱい試合だったと言わざるを得ません。Bチームが中心の国体選抜があれだけ岐阜魂を見せたのに、Aチームにはないのか？お前らヤル気あるのか？何しに鳴門まで来たのか？昇格とかそんなこと考える前に、ちゃんとサッカーしろよ！戦えよ！そう思ってしまった試合後でした。(あふろん)